

(一部割愛)

- 16 ヤコブがマリアの夫ヨセフを生んだ。キリストと呼ばれるイエスは、このマリアからお生まれになった。
- 17 それで、アブラハムからダビデまでが全部で十四代、ダビデからバビロン捕囚までが十四代、バビロン捕囚からキリストまでが十四代となる。

【 ルカの福音書 】

- 3:23 イエスは、働きを始められたとき、およそ三十歳で、ヨセフの子と考えられていた。ヨセフはエリの子で、さかのぼると、
- 3:24 マタテ、レビ、メルキ、ヤンナイ、ヨセフ、

(一部割愛)

- 3:31 メレア、メンナ、マタタ、ナタン、ダビデ、
- 3:32 エッサイ、オベデ、ボアズ、サラ、ナフシオン、
- 3:33 アミナダブ、アデミン、アルニ、ヘツロン、ペレツ、ユダ、
- 3:34 ヤコブ、イサク、アブラハム、テラ、ナホル、
- 3:35 セルグ、レウ、ペレグ、エベル、シェラ、
- 3:36 ケナン、アルパクシャデ、セム、ノア、レメク、
- 3:37 メトシェラ、エノク、ヤレデ、マハラルエル、ケナン、
- 3:38 エノシュ、セツ、アダム、そして神に至る。

【 ピリピ人への手紙 】

- 2:6 キリストは、神の御姿であられるのに、神としてのあり方を捨てられないとは考えず、
- 2:7 ご自身を空しくして、しもべの姿をとり、人間と同じようになられました。人としての姿をもって現れ、
- 2:8 自らを低くして、死にまで、それも十字架の死にまで従われました。
- 2:9 それゆえ神は、この方を高く上げて、すべての名にまさる名を与えられました。

* 特に断りが無い限り、新改訳2017より使用



希望の光バプテスト教会

2020年11月29日(日)

礼拝メッセージノート

「 契約に基づくメシアの誕生 」

| クリスマス② | マタイの福音書1:1-17 他 小野寺 望 牧師

【 マタイの福音書 1章 】

- 1 アブラハムの子、ダビデの子、イエス・キリストの系図。
- 2 アブラハムがイサクを生み、イサクがヤコブを生み、ヤコブがユダとその兄弟たちを生み、
- 3 ユダがタマルによってペレツとゼラフを生み、ペレツがヘツロンを生み、ヘツロンがアラムを生み、
- 4 アラムがアミナダブを生み、アミナダブがナフシオンを生み、ナフシオンがサルマを生み、
- 5 サルマがラハブによってボアズを生み、ボアズがルツによってオベデを生み、オベデがエッサイを生み、
- 6 エッサイがダビデ王を生んだ。ダビデがウリヤの妻によってソロモンを生み、
- 7 ソロモンがレハブアムを生み、レハブアムがアビヤを生み、アビヤがアサを生み、
- 8 アサがヨシャファテを生み、ヨシャファテがヨラムを生み、ヨラムがウジヤを生み、
- 9 ウジヤがヨタムを生み、ヨタムがアハズを生み、アハズがヒゼキヤを生み、
- 10 ヒゼキヤがマナセを生み、マナセがアモンを生み、アモンがヨシヤを生み、
- 11 バビロン捕囚のころ、ヨシヤがエコンヤとその兄弟たちを生んだ。
- 12 バビロン捕囚の後、エコンヤがシェアルティエルを生み、シェアルティエルがゼルバベルを生み、
- 13 ゼルバベルがアビウデを生み、アビウデがエルヤキムを生み、エルヤキムがアソルを生み、

(4ページへ続く)

◆はじめに ～前回の復習を交えて・・・

| イエスの誕生：神であるお方が、人としての姿を取ってくださった（受肉）

1. 受肉の必要性

①神を啓示するため ②真の人間性を揭示するため ③罪の贖いのため

④ダビデ契約を成就するため ⑤悪魔のわざを壊す（1ヨハ3：8）

⑥思いやりのある大祭司となるため（ヘブ4：14～16）

*特に④ダビデ契約は、クリスチャンにとって軽視されやすく、実感しにくい。

キリスト教界における終末論理解の混乱にも関係している。

*「原罪」の解決には受肉が必要（③）。人間の罪の呪いは受肉を困難にする。

2. 受肉を実現する方法としての処女降誕

(1) イエスは原罪を負わない：聖霊により処女マリヤの胎を拠り所に降誕する。

(2) 王座に着くために必要な条件を全うするため。

◆メッセージのアウトライン紹介とゴール

| 神の計画はすべての困難を超えて実現する。

*このメッセージは、メシアの処女降誕を通して、神の計画の素晴らしさを学ぶものである。

=====

I 福音書（マタイとルカ）の二つの系図

1. 系図の重要性：系図は、エルサレム崩壊（70年）まで神殿に大切に保管された。

2. 系図は何を教えるか～系図が二つある必然性

(1) メシアは「王」であり、「人」であることを示す。

①マタイはユダヤ人向けに「メシアが王であること」を表すため。

*アブラハム～ダビデ、ソロモンを経てヨセフに至る内容。

②ルカはギリシャ人向けに「メシアが人であること」を示すため。

*ヨセフ（の妻）～ナタン、ダビデを経てアダムまでさかのぼる内容。

(2) ダビデ契約の観点から、イエス＝キリスト（メシア）であることを証明する。

* 処女降誕により受肉したことが、複数の系図から示される必要がある。

II ヨセフの系図（マタイ1章1～17節）

1. 系図が持つ特徴とその意味

(1) ラバブ、ルツ、バテシェバ、タマルの4人の女性を含む（通常の作法に反する）

共通点①：彼女たちは「異邦人」であること。

*メシアが来られた理由は、「イスラエルの失われた羊」を救うため。

また彼らだけでなく、異邦人であってもメシアの恩恵に与ることを表す。

共通点②：性的墮落（モアブ人・ルツは、性的墮落に起因する民である）

*イエスが来られたのは、罪人を救うためであることを表す。

(2) マタイの系図はヨセフに王位継承権が無いことを示している。

①ソロモン以後（王国分裂後）に王座に着く条件

*南王国：ダビデ王家の一員である。*この王家は絶対に守られる（イザ7～8章）

*北王国：預言によって任命があること。。

（1列11：26-39、15：28-30、16：1-4、11-15、21：21-29など）

②バビロン捕囚直前の王、エコンヤ（コヌヤ、エホヤキンとも呼ばれる）の呪い。

*「彼の子孫には王座に着かせない」という特別な呪いを受けた。

*ヨセフはエコニヤの直系の子孫で、王位を継承できない（エレ22：24-30）

*呪われたヨセフの系図を、なぜメシアの証明として冒頭に大胆に掲げられるか？

→「処女降誕」（イザ7：14、創3：15）を前提としているから（マタ1：23）

III マリヤの系図（ルカ3章23～38節）

1. 系図が持つ特徴とその意味

(1) 名前に定冠詞が付いている：ギリシャ語で女性を系図に入れる際の作法

①ルカの系図がマリヤの家系である根拠

A. 原語ではヨセフの名を除いてすべての名に、「The」にあたる定冠詞が付く。

*専門家はマリヤの系図と結論付ける（エズ2：61、ネヘ7：63も同様）

B. 他の2つの根拠：

*23節の別訳「ヨセフの子と考えられていた…」→「ヨセフの子と思われたがエリの子孫で」

*タルムード自身も、マリヤをヘリの娘と扱う。

(2) マリヤの系図は、イエスのみに王位継承権があることを表す。

①マリヤの家系はダビデ家の中でもナタンの子孫で、エコンヤの呪いは受けない。

②しかし、マリヤの他にもエコンヤに属さないダビデの子孫は沢山いる。

③「神による任命」（北王国で王座に着く条件）を受けたのはイエスのみ。

*ルカの系図は、イエスの受洗（22節）で起こった「わたしの愛する子」という

任命に続いて、アダムまでの系図からメシアが「神の子」であることを強調した。

◆まとめ：神の計画はすべての困難を超えて実現する。

1. メシアの受肉にとって、処女降誕は不可欠である。

①イエスの誕生は、神の契約や約束に基づいて、神の民に与えられた。

②神の計画は何と壮大で、美しく調和が取れている。今一度驚嘆し賛美しよう。

2. イエスの存在は、「インマヌエル」（神が共におられる）ことを示すもの。

①その恩恵が全世界の人々にあることを喜ぶのが、クリスマスである。

3. すべての問題を解決する神の計画にのみ信頼し、イエスの誕生を喜ぼう。

①コロナ禍で、不安に満ちた世で、これ程力強い励ましがあるだろうか。

②終末や再臨も同様である。この当時の神の民のように、今一度メシア待望を！